

ぼくたちができる地域への支え合い

平塚市立春日野中学校 1年 ^{うちだ}内田 ^{たくみ}匠海

ぼくの家の隣には、85才のおばあちゃんが住んでいます。昔は家族と一緒に住んでいましたが、子供達は結婚して独立し今はおばあちゃんが一人で暮らしています。おばあちゃんは足腰が弱くなり買い物に行くのも大変になってきていました。最近、今日が何曜日か忘れてしまうことも多くなっていました。家族はこれ以上おばあちゃんが一人で暮らすのは難しいと判断して施設で暮らすことを選択しました。おばあちゃんは、思い出がたくさん詰まった家や大切に育てていた庭の草花と離れることがとても寂しいと言っていました。

今、日本では高齢化がものすごいスピードで進んでいます。2019年時点で総務省の調査によると高齢者人口は約3500万人で過去最多となっています。日本の人口に占める割合は28.9%にもなっています。では、どうしてこのように高齢化が進んでしまったのでしょうか。その原因として医療技術の進歩や平均寿命が延びたことなどがあげられます。それとともに最近では認知症に関わる問題が大きな課題となってきています。日本は、2012年に65才以上の認知症の人数が約460万人で人口の7人に1人の割合でした。しかし、これが2025年には、約700万人で、人口の5人に1人が認知症になるとわかってきています。

では足腰が弱まり日常生活が不便になったお年寄りや認知症を患ったお年寄りは、隣のおばあちゃんのように大切な家を出て施設で暮らすことを選択せざるを得ないのでしょうか。長年住みなれた地域で親しい友人達とおしゃべりをしながら暮らすことはできないのでしょうか。

今まで通りに家で住むにはどうすればいいのか中学生の自分なりに考えてみました。在宅医療や介護保険のサービスを利用している人が多いようですが、私は「地域の支え合い」の仕組みを整えることが一つの方法ではないかと思いました。私の考えた仕組みは次の通りです。中学校で「ちょこっとお助けたい」というクラブを作ります。このクラブは地域のお年寄りの人が困っていたらさりげ

なく助けてあげることを目標にします。具体的には、まずお年寄りにアンケートをとり、どんなことに困ることが多いのか調査します。次にはその中で自分たちにできそうな項目を選択し、チラシを作り必要なときにお年寄りがお手伝いを申し込めるようにします。例えばごみ捨てのお手伝いです。足腰が弱いお年寄りはごみを捨てるのが大変なので玄関や車庫の前にごみを置いておけば登校する中学生がごみを捨てるというお手伝いです。他にも電球をとりかえたり、草むしりなどもできると思います。逆にお年寄りにもお願いしたい仕事があります。例えば中学校のそうじの時間に使う雑巾をぬってもらったり、家庭科の授業で昔の料理を教えてもらったりしたいです。その他にも小学生が登校する時に交通事故にあったりしないように家の前で声をかけてくれると助かります。このように中学生とお年寄りがお互いにできることをして共に支え合うことで、「支え合いの仕組み」が整うと思います。「支えられる」だけでなく、自分ができることで、「支える」という気持ちも大切なのではないでしょうか。

このように、お年寄りが家で安心して暮らせる体制を整えることで、その人が希望する場所でその人らしく過ごせるような社会になったらいいと思います。